

[第887回ゼミ報告] 2024年10月4日号

正月の地震、復興への道半ば9月下旬に、記録的豪雨で河川の氾濫と土砂崩れ、多くの人々が犠牲に、能登半島。日本周辺海域の温暖化によると・・・9月25日のゼミは、佐々木隆治『資本論第3巻』の第2章「利潤率の平均利潤への転化」の第3節「一般的利潤率の均等化のための競争。市場価格と市場価値。超過利潤」、第4節「資本家の補償理由」、第5節「労賃の一般的引上げあるいは引き下げ(下落)がさまざまな商品の生産価格に及ぼす影響」を前回に引き続き、小野さんの報告で行いました。困難な問題は、利潤率の均等化・一般的利潤率の形成がどう行われるか。交換比率の有利・不利の判断基準は抽象的人間労働。価値法則の根幹は商品形態での労働配分メカニズム。需要・供給一致：社会的総労働均等配分の物象化の現象：「マルクス均衡」。需給一致せず運動の平均・矛盾の不断の運動で一致。市場価値の価値からの乖離は独自の需給構造に価値の修正。マルクス均衡の観点：市場価値の時点で価値からの乖離が発生。需要弾力性は市場価値に影響を与えず。需給の弾力性で市場価値が価値で制約される。市場価値には最良条件での超過利潤を含む。価値と生産価格は本質と現象であり歴史的関係でないが、マルクスは前近代的状態での価値通りの交換、同一生産部門での競争のみ価値法則が貫徹との矛盾の記述。「統計一致命題」は近似的命題で有効だが、金科玉条は害悪、マルクス均衡で近似的な解釈で価値法則として有益。競争での支配する価値規定。労賃の引き上げと利潤の引下げ、価値・価格は変動せず。討論では、理論と現実が一致しない、利潤率では部門毎に生産価格と価値。価値・市場価値から市場生産価格・市場価格へ。均等価格と「マルクス均衡」概念、矛盾しないのか、佐々木は宇野派に近づくのか。「物象化」と「形象化」：大谷説。市場生産価格における部門間競争は。総計一致：現実はそうならない、理論として。生産価格での本質と現象。会場参加は川口さん・高田、オンライン参加は小野さん・斎藤さん・竹内さん・後藤さん・田中(興)さん・井貝さんの合計8名の参加でした。

\* 10月9日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 839 6523 8366 パスコード: 896198

\* 前回のゼミたより(2024年9月20日号・第886回ゼミ報告)：

報告の冒頭に日付の誤記があり、以下訂正します：

誤「7月24日のゼミは」→ 正「9月11日のゼミは」

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

10月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『マルクス解体』5章 ユートピア社会主義再来 報告:竹内さん

10月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

佐々木『資本論第3巻』第3章 一般的利潤率傾向的低下 報告:高田

11月13日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『マルクス解体』6章 Marxと脱成長コミュニズム 報告者未定

その後 11/27, 12/11, 12/25 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章：ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso